

## 第4回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和5年1月24日（火）15時00分～17時00分
会 場	平塚市役所410会議室
出席委員	井手委員、大和田委員、鈴木委員、丸島委員、小巻委員、 畠中委員、江水委員、飯田委員、伊東委員、河野委員
欠席委員	上間委員
事務局	平井社会教育部長、田中社会教育課長、西山中央公民館長 坂田課長代理、木村主査、吉水主事
傍聴者	なし

### 会議要旨

---

#### 1. 議長あいさつ

前回会議から3か月程経つが、各地区でもさまざまなイベントが実施されていると思うので、情報共有できればと思う。

社会教育部長から今年度実施した事業や次年度の社会教育部内の計画について説明があった。

#### 2. 議事

##### (1) 実施事業紹介

・横内サポネット（教育力ネット）の「ヨコフェス2022」について、事業の紹介動画と打ち上げ花火のドローンの空撮動画を見ながら、事務局から概要を説明した。

##### (2) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

・地区研究会（箱根町）について

事務局から2月16日（木）に開催予定の地区研究会の案内をした。

##### (3) 協議テーマについて

##### ○議長

今期のテーマについては、まだ決まっていないが、これまで話し合われてきた内容を踏まえて、とりあえず仮タイトルとして「子どもの地域参加・参画」としていきたいと思う。次年度には提言書のような内容になるか分からないが、協議してきた内容や事例等を報告書としてまとめていきたい。

委員の皆さんの地区での子どもの地域参加・参画の状況やコロナ禍での工夫などあれば教

えていただきたい。

○委員

市内の小学校では、コロナだけでなく、季節性インフルエンザも流行しており、学級閉鎖になっているクラスもある状況。寒い時期で換気がしにくい状況もあるが、定期的に換気をするようにしている。

岡崎地区では、14～15年前から毎週土曜日に福祉村で小・中学生向けの学習支援を行っている。登録している子どもは40名程で地域の方が指導者（10名程度）として見ていただいている。普段の学習のほか理科の実験教室や朗読発表会、夏には子どもサロンも実施した。

この学習支援の生徒だった子どもが大人となり、指導者として戻ってきている。

○副議長

この学習支援の卒業生が大人になって指導者として戻ってきてくれるのはとても素晴らしい。その方が「指導したい」と申し出て、受け入れられる地域の環境も素晴らしいと思う。指導者の皆さんが継続して種を蒔き続けてきた成果でしょう。

○議長

横内の教育力ネットでは、過去に参加した子どもたちに大人になってからインタビューをして、地域行事に参加することの楽しさなどを語ってもらっている事例がある。担い手不足という問題があるが、このように指導者として戻ってきてくれるサイクルがうまくできると良いと思う。

○副議長

子どもの参加者が40名はとても多い。教育委員会が実施している放課後学習教室では、なかなかそこまで集まらない。とても地域に密着していると感じる。

○議長

40名を一度に集めると部屋の確保が大変なのでは。

○委員

低学年の部、高学年の部、中学1年生の部と3つの時間に分けて実施している。

○議長

旭北地区ではどうか。

### ○副議長

自治会の夏祭りがコロナの影響で中止となっしまい、何かできないかと役員で考え、冬祭りを実施した。渡り廊下にイルミネーションを実施したり、松ぼっくりでクリスマスツリーを作るワークショップ、的当て、射的、模擬店を出店した。ステージでは、ヒップホップダンスや高齢の方々による盆踊りも披露され、大いに盛り上がった。想定より多くの方が参加し、少し密な状況も見られたことが反省点である。参加者にアンケートを取ったが、多くの方がお祭りのような多世代が集まる大きなイベントを待ち望んでいたということを実感した。また、3年ぶりということもあり、手探りの部分もあるが、とにかくやることをやっていくことが大切だと思う。

中学生にもっと参加してもらうには、今まで実施していた内容をそのまま実施するのではなく、まずは運営側が中学生のニーズを把握していくことが大切ではと感じた。今後、中学生にゲームのコーナーを運営してもらうこともあってもいいかもしれない。

### ○委員

港地区で「おじいちゃんの小さな美術館」という催しが行われ、パネルシアターや読み聞かせ等を実施し、来場者は110名だった。

港地区では「郷土いろはカルタ大会」も実施され、子ども122名の参加、運営スタッフ78名、中学生ボランティア（かるたの読み手）は7名だった。例年は保護者や来賓をお呼びしているが、コロナ対策のため、やむなく人数を絞り実施した。

例年であれば、地域の来賓の方を一人一人開会式で紹介しているが、今回はできなかった。開会式が長くなってしまうが、地域の方を子どもたちに知ってもらうため、伝統的に続けている。

### ○議長

開会式が長いという話は聞いているが、地域内で大人と子どもが顔の見える関係というのはとても良いと思う。

自治会の状況はいかがか。

### ○委員

大原地区は児童数が少ない地区であるが、小学校は防災や防犯に力を入れている。校長の発案で防災推進委員会に小学生を派遣したいという相談があった。

新しい校長、教頭なので、すぐに今年度の実現は難しいかもしれないが、来年度あたりから実現できればと考えている。

### ○委員

今年は地区の元旦駅伝が実施され、今回の参加者が歴代で最多であった。コロナの影響で

参加者が少ないのではと心配したが、とても多くの方の参加があった。コロナでイベントが中止となっていたので、子どもたちもイベントの実施を待ち望んでいたのかもしれない。2月から3月にかけて市内の公民館まつりが実施されるが、吉沢公民館では小・中学生のボランティアを募集している。個々にどんなボランティアがしたいか希望を取ると偏りが出ることもあり、運営側で当日振り分けるようにしている。

また、連合自治会から自治会で所有している市民農園で小学生と一緒に一年通して農園をやりたいと申し出があった。土日は市民に貸し出している関係で実施が難しいため、平日に実施したいが、授業のカリキュラムやクラブ活動などに入れられたらいいと思っている。学校との協力が不可欠なので、今後詰めていきたい。

授業等に組み込むのが難しければ、公民館の児童・生徒地域参加事業で年間通して実施することも考えていきたい。

#### ○議長

かなり昔のことだが、農業委員会から話があって、豊田地区で「菜の花プロジェクト」というイベントをおやじの会が中心となって実施した。年度をまたいだ事業であり、一年間を通しての事業は大変だった。

けれども、子どもたちにとって、学校や家庭以外の大人と触れ合うことや土いじりをする機会が減っているので、貴重な体験になったと思う。

#### ○副議長

中学校の部活動の地域移行の話も出てきているので、時間は掛かるかもしれないが、小学校より中学校の方が可能性はあるかもしれない。

#### ○議長

子どもに関わる地域の団体（PTAや青少年指導員等）と協力してみるのもいいかもしれない。

おやじの会の活動はどんな状況か。

#### ○委員

先日、教室の机の古くなった天板を交換するボランティアをした。例年8月に子どもたちの学習環境の整備を目的に活動しているが、今年はコロナの影響で冬になってしまった。

また、制服のリサイクルをPTAの委員会が実施している。

地域の行事では、3年ぶりに元旦マラソンが開催されたが、コロナ前に比べ参加者は少ない状況だった。参加者が戻るよう継続して実施できたらと思う。

公民館まつりでは模擬店を実施しないとなかなか人が入らない。金田公民館では今年も模擬店の実施がないことは残念。

○副議長

公民館まつりのボランティアは公民館で募集しているものか。

○事務局

公民館ごとに組織されている公民館まつり実行委員会で決定している。

○委員

公民館まつりの模擬店を出店するかどうか公民館ごとで違いがあるが、なぜ市内一律ではないのか。

○事務局

各公民館まつり実行委員会で出店するかどうかを判断している。コロナの影響で地域団体の活動がなかなか実施できていないところもあり、やむなく出店しないと判断した地区もある。

○委員

子どもを対象とした読み聞かせのイベントはあるが、大人向けの読み聞かせのイベントがないので、公民館に提案した。提案した内容を実現に向けて進めることができている。公民館に地域住民の一人として、希望を伝えてもいいかもしれない。

○委員

私が住んでいる世田谷区では、平塚市のような公民館ではなく、区民センターが設置されている。区民センターが主催する事業だけでなく、NPO がやりたい事業を提案し、区から予算をもらい、実施していることが特徴である。人口の多い世田谷区では、NPO が市民の多様なニーズを拾い上げている。

また、子どもたちが自然と触れ合う外遊び（泥遊び、焚火、川の観察、里山体験等）を紹介する冊子を発行している。なかなか外遊びの機会が減ってしまっていることもあり、公園等が整備され、さまざまな体験教室を展開している。

これとは別で、「若者ライフガイド」という若者（中学生～39歳）に向けた日常の「○○したい」を実現するための冊子を発行している。区内のさまざまなNPOの活動がまとめられており、遊ぶや寛ぐだけでなく、就職支援や何をしていても良いフリーなスペースがあったり、大学生が運営する女の子の居場所、子ども食堂のようなものもある。

「○○したい」という考えを持っている市民や団体が市（公民館）とゆるやかな関係で連携していけると多くの方を巻き込んで色々なことが実現できると思う。

東海大学のデザイン学科の学生が卒業制作でキャンパスのある金目地区の魅力を冊子とし

てまとめている。月2～3回、金目公民館に行き、地元の方の声を聴きながら、作成した。  
（作成した学生の許可が取れたら）冊子を委員の皆さんにも見ていただけたらと思う。  
例えば、公民館事業でその公民館の地域についてまとめられたパンフレットのコンペティションを実施しても面白いと思う。毎年情報を蓄積していくことにもなるし、地域の情報を広める機会になって良いのでは。

#### ○議長

子どもたちが住んでいる地域の魅力を知ることによって好きになったり、誇りを持てたり、自分自身の肯定感にも繋がっていくのではないかと思う。  
各地区でも子どもたちにボランティア活動に参加してもらう仕組みがなかなかできていないのが課題だと思う。昔は地域活動やボランティア活動に参加すると内申点に加点されたりしたこともあり、多くの子どもたちが活動に参加してもらっていたこともあるが、今はなかなか難しい。  
次回の会議に向けて、今日のようなさまざまな事例を持ち寄ってもらいながら、意見交換をしていきたい。

#### （4）次回の会議予定の確認

第5回会議日程 令和5年6月6日（火）15時から（会議室は未定）

---

### 3. その他

#### 事務局

- ・社会教育委員の任期について、選出団体によっては交代になる委員もいるかもしれないが、社会教育委員の任期は2年（令和4年6月1日～令和6年5月31日）なので、次年度も引き続きお願いしたい。
- ・議長、副議長には、2月17日（金）15時から教育委員との懇談会が予定されている。

以 上